

臨牀 消化器内科 第 37 卷 ● 総目次

Vol. 37 / No. 1 ~ No. 13

(2022 年 1 月号 ~ 12 月号)

特 集

- | | | | |
|-------|--|--------|-----------------------------------|
| No. 1 | Cold polypectomy の課題 | No. 8 | ウイルス肝炎制御時代の肝発癌 |
| No. 2 | 高齢者の消化器疾患—適切な診断
法と治療法を目指して | No. 9 | 食道疾患の診療〔増刊号〕 |
| No. 3 | 非 B 非 C 型肝癌を繙く | No. 10 | 胆道ドレナージのすべて
—適応・方法 |
| No. 4 | 進化する画像診断
—下部消化管領域 | No. 11 | 外来で行う消化器がん薬物療法の
コッ—専門医からのアドバイス |
| No. 5 | 胆石症の診療方針 | No. 12 | 肝の超音波を知り尽くす
—びまん性肝疾患の診断 |
| No. 6 | 内視鏡検査で大腸癌の見落とし
ゼロを目指して | No. 13 | 肝の超音波を知り尽くす
—肝腫瘍の診断と治療支援 |
| No. 7 | Common disease となった潰瘍性
大腸炎の現状と診療のコツ | | |

● Vol. 37 No. 1 Cold polypectomy の課題

- | | | |
|--|---|-------|
| 巻頭言 | 鶴田 修 | 5~6 |
| 1. ポリープ切除における cold polypectomy の
位置づけ | 浦岡 俊夫・田中 寛人
糸井 祐貴・佐藤 圭吾
中田 昂・春日 健吾
橋本 悠・保坂 浩子
栗林 志行 | 7~12 |
| 2. 十二指腸における cold polypectomy | | |
| (1) 表在性非乳頭部十二指腸上皮性腫瘍に
対する cold snare polypectomy | 吉水 祥一・藤崎 順子 | 13~21 |
| (2) 十二指腸腫瘍に対する cold と hot
polypectomy のメリット、デメリット | 諏訪 哲也・吉田 将雄
小野 裕之 | 22~27 |
| 3. 大腸における cold polypectomy | | |
| (1) 微小病変の内視鏡診断—とくに微小癌の
診断 | 河野 弘志・鶴田 修
上野恵里奈・渡辺 大将
渡邊 優征・菅原 脩平
深水 航・柴田 翔 | 29~35 |

- | | | |
|---|--|-------|
| (2) 病理医からみた Resect and Discard に
対する見解 | 河内 洋 | 36~40 |
| (3) Cold polypectomy における処置具の
使い分け | 朝山 直樹・永田 信二
嶋田賢次郎・青山 大輝
福本 晃・向井 伸一 | 41~51 |
| (4) 抗血栓薬・抗凝固薬服用下における cold
polypectomy | 堀内 朗・堀内一太郎 | 52~57 |
| (5) Cold polypectomy と hot polypectomy の
偶発症の比較 | 山階 武 | 58~63 |
| (6) 10 mm 以上のポリープに対する cold snare
polypectomy の課題と今後の展望 | 木本 義明・大圃 研 | 64~71 |
| (7) Underwater cold polypectomy の有用性
と課題 | 丸岡 大介・沖元謙一郎
松村 倫明・加藤 直也 | 72~78 |
| (8) Cold polypectomy 後の遺残・再発への対応 | 鈴木 翔・池原 久朝
堀井 敏喜・市島 諒二
草野 央・後藤田卓志 | 79~85 |
| (9) Cold snare polypectomy 後のサーベイラ
ンス | 魚住 健志・高丸 博之 | |

齋藤 豊・山田 真善			楡井 和重・森山 光彦	191~198
小林 望・松田 尚久	86~91		名越 澄子	199~206
4. 症例からみえた課題			11. 胆嚢結石・胆嚢炎	
(1) 小腸ポリープに対する cold polypectomy			小嶋 啓之・向井俊太郎	
山村 健史・中村 正直			糸井 隆夫	207~214
前田 啓子・澤田つな騎			12. 総胆管結石・急性胆管炎	
石川 恵里・角嶋 直美			林 伸彦・安田 一朗	
古川 和宏・川嶋 啓揮	93~96		北村 和紀・松野 潤	
(2) 憩室内病変に対する cold polypectomy			中村 佳史・井上 祐真	215~222
柳澤 文人・紺田 健一			13. 急性膵炎・慢性膵炎	
居軒 和也・山村 冬彦			佐久間 文・入澤 篤志	
片桐 敦・吉田 仁	97~101		星 恒輝・山宮 知	
(3) I p 型ポリープに対する cold polypectomy			永島 一憲・水口 貴仁	223~230
有本 純・山田 恵爾			●Vol. 37 No. 3 非 B 非 C 型肝炎を繙く	
岡田 直也・桑原 洋紀			巻頭言	建石 良介 243~244
中岡 宙子・千葉 秀幸	102~107		1. 非 B 非 C 型肝炎の特徴—B 型 C 型肝炎との比較	長沖 祐子・今村 道雄
(4) 家族性大腸腺腫症の腸管温存に対する cold snare polypectomy の治療戦略			相方 浩	245~252
安江 千尋・千野 晶子			2. 非 B 非 C 型肝炎の発癌メカニズム	藤原 直人・星田 有人 253~258
石岡 充彬・井出 大資			3. 脂肪肝からの肝発癌	川村 祐介 259~264
五十嵐正広・齋藤 彰一	108~112		4. 糖尿病からの肝発癌	内野 康志 265~270
(5) Cold polypectomy 後に癌であった場合の対応			5. 非 B 非 C 型肝炎のサーベイランス	
田邊 万葉・浦上 尚之			(1) FIB-4 index/腫瘍マーカーの有用性	熊田 卓・豊田 秀徳
年森 明子・横山 登			安田 論	271~278
井上 晴洋	113~116		(2) Transient elastography/Shear wave elastography を用いた囲い込み	西村 貴士・飯島 尋子 279~283
●Vol. 37 No. 2 高齢者の消化器疾患			(3) MR エラストグラフィを用いた肝癌高リスク群の囲い込み	樋口 麻友・玉城 信治
—適切な診断法と治療法を目指して			黒崎 雅之・泉 並木	284~289
巻頭言	高橋 信一	129~130	6. 非 B 非 C 型肝炎の治療	
1. 胃食道逆流症 (GERD)	藤原 靖弘	131~136	(1) 非 B 非 C 型肝炎細胞癌症例の切除成績と近年の傾向	真島 宏聡・小林 剛
2. 機能性ディスペプシア			橋本 昌和・黒田慎太郎	291~298
川口 真平・竹内 利寿			(2) 穿刺局所療法	南 康範・工藤 正俊 299~303
太田 和寛・樋口 和秀	137~144		(3) 肝動脈化学塞栓術	佐々木康二・上嶋 英介
3. <i>Helicobacter pylori</i> 感染胃炎			岡田 卓也・山口 雅人	304~310
杉本 光繁・河合 優佑			杉本 幸司・村上 卓道	
岩田 英里・永田 尚義			(4) 進行肝細胞癌に対する薬物治療	
河合 隆	145~153		—非 B 非 C 型肝炎に対する考え方	小笠原定久・叶川 直哉
4. 消化性潰瘍	河口剛一郎・菓 裕貴		加藤 直也	311~317
池淵雄一郎・吉田 亮			(5) 肝移植	西尾 太宏・伊藤 孝司
八島 一夫・磯本 一	155~160		秦 浩一郎・増井 俊彦	
5. 機能性下部消化管疾患—慢性便秘症を中心に			田浦康二郎・波多野悦朗	318~326
中島 淳・三澤 昇	161~166			
6. 虚血性大腸炎	穂苅 量太・東山 正明			
成松 和幸	167~174			
7. 大腸憩室症 (憩室出血, 憩室炎)				
星本 相理・大森 順				
貝瀬 満・岩切 勝彦	175~182			
8. 高齢者 IBD	松浦 稔・久松 理一	183~190		
9. 慢性ウイルス性肝炎				
神田 達郎・石井 大雄				
増崎 亮太・松本 直樹				

7. 非 B 非 C 型肝炎における抗腫瘍免疫応答と免疫細胞プロファイルの特徴	清家 拓哉・水腰英四郎 金子 周一	327~334
8. ウイルス制御後発癌リスク因子としての生活習慣	南 達也・建石 良介	335~340
●Vol. 37 No. 4 進化する画像診断—下部消化管領域		
巻頭言	山本 貴嗣	357~358
1. 小腸内視鏡診断の現状と課題		
(1) バルーン内視鏡—小腸の中心的画像検査法	大塚 和朗	359~366
(2) スパイラル内視鏡—高い挿入性, 安全性を目指して	細江 直樹・林 由紀恵 筋野 智久・高林 馨 緒方 晴彦・金井 隆典	367~370
(3) 小腸カプセル内視鏡—第一選択の小腸内視鏡	藤森 俊二・濱窪 亮平 星本 相理・西本 崇良 大森 順・岩切 勝彦	371~377
2. 大腸内視鏡診断の現状と課題		
(1) 画像強調観察による診断支援—NBI, BLI, LCI	田中 秀典・上垣内由季 岡本 由貴・山下 賢 岡 志郎・田中 信治	379~385
(2) 顕微内視鏡(CLE, EC)—リアルタイム病理診断を目指して	村元 喬・大圃 研 石井 鈴人・根岸 良充 港 洋平・酒井 英嗣	386~392
(3) 大腸カプセル内視鏡—機器, 検査法の現状と今後の展開を巡って	荒木 昭博・松井 啓 小西 未央・野村 浩介 早坂淳之介・布袋屋 修	393~398
3. 下部消化管疾患の超音波診断—現状と課題		
(1) EUS—大腸腫瘍術前診断における有用性	山田 啓策・田近 正洋 田中 努・大西 祥代 神谷 友康・丹羽 康正	399~403
(2) 体外式超音波—簡便性, 非侵襲性, 広い用途の診断法	畠 二郎・今村 祐志 中藤 流以・眞部 紀明	404~410
4. 消化管画像診断(CT, MRI, PET)—現状と課題		
(1) 大腸 CT 検査(CT colonography)—がん検診, がん術前検査での展開	歌野 健一・根本 大樹 愛澤 正人・五十畑則之 遠藤 俊吾・富樫 一智	411~418
(2) 消化管疾患に MRI が果たす役割と今後の展望	吉原 努・高津 智弘 三澤 昇・芦莉 圭一 大久保秀則・中島 淳	419~425
(3) 下部消化管領域における ¹⁸ F-FDG-PET/CT 検査の有用性	岸野 充浩	426~432
5. ICT, AI の進歩が革新する下部消化管診断		
(1) 大腸内視鏡 AI 診断のトピックス—自動診断時代の幕開け	山田 真善・斎藤 豊 山田 滋美・近藤 裕子 浜本 隆二	433~440
(2) カプセル内視鏡の読影効率化, 普及展開を推進する AI 診断	山田 篤生	441~448
(3) Extended reality(VR, AR, MR), hologram, metaverse による空間的消化器診断・手術支援	杉本 真樹	449~457
(4) 病理診断—AI による診断支援, ICT が拓く遠隔医療	斉藤 光次	458~466
●Vol. 37 No. 5 胆石症の診療方針		
巻頭言	田妻 進	485~486
1. 胆石の成因と機序	大屋 敏秀	487~492
2. 胆石症の診断	小川 貴央・伊藤 啓	493~498
3. 胆嚢結石症の治療方針	中井 陽介	499~506
4. 胆管結石症の治療方針	植木 敏晴・丸尾 達 土居 雅宗・永山林太郎 立川 勝子・田中 利幸	507~514
5. 胆管結石の内視鏡治療	清水 孝夫・林 毅 高橋 邦幸・金 俊文 潟沼 朗生	515~526
6. 消化管再建後の胆管結石の内視鏡治療	杉山 晴俊・大山 広 加藤 直也	527~534
7. 胆石性膵炎	横山 健介・菅野 敦 三輪田哲郎・長井 洋樹 池田恵理子・安藤 梢 玉田 喜一・山本 博徳	535~540
8. Mirizzi 症候群の診断・治療	宅間 健介・岡野 直樹 伊藤 謙・永井 英成 松田 尚久・五十嵐良典	541~546
9. 胆嚢・胆管結石症の外科治療	徳村 弘実・野村 良平 松村 直樹・佐藤 馨 成島 陽一・斎藤 匠 小野 翼・平嶋 倫亮 本山 一夫	547~554
10. 肝内結石症の診療方針	鈴木 裕・森 俊幸	

	伊佐山浩通・田妻 進 田中 篤・阪本 良弘	555～562
11. 関連疾患		
(1) 胆嚢隆起性病変の診療		
	嘉島 賢・入澤 篤志 星 恒輝・山宮 知 永島 一憲・水口 貴仁 佐久間 文・久野木康仁 福士 耕・富永 圭一	563～570
(2) 胆道ジスキネジア		
	竹中 完・山崎 友裕 大本 俊介・三長 孝輔 鎌田 研・工藤 正俊	571～575
●Vol. 37 No. 6 内視鏡検査で大腸癌の見落としゼロを 目指して		
巻頭言	浦岡 俊夫	607～608
1. 大腸癌の見落としはいつ、どうして起こるのか		
(1) 大腸癌はどれだけ見落とされているの か—大腸がんスクリーニングの現状と最 近のトピックス	松田 一夫	609～614
(2) 大腸内視鏡スクリーニングとサーバイ ランスガイドラインにおけるポイント —見落としゼロの観点から	齋藤 豊・関口 正宇 松田 尚久・水口 康彦 久田 泉・豊嶋 直也 高丸 博之・山田 真善	615～622
(3) 大腸内視鏡の質を高め、維持する Quality Indicator の重要性	今井健一郎・堀田 欣一 伊藤 紗代・岸田 圭弘 高田 和典・小野 裕之	623～630
(4) PCCRC と適切な大腸内視鏡検査間隔	松田 尚久・藤本 愛 佐野 寧・藤井 隆広	631～636
2. 見落としをしないための工夫		
(1) 見落としゼロを目指した前処置法	堀内 英華・玉井 尚人	637～641
(2) フードアタッチメントを用いて見落とし ゼロへ	寺井 毅・村上 敬 松本 健史・別府加寿子 渡辺 英伸	642～649
(3) 大腸内視鏡検査で見落とししやすい病変とは —内視鏡検査のポイント(白色光、色素内 視鏡を中心に)	岩館 峰雄・杉村 直毅 平田 大善・服部 三太 藤田 幹夫・佐野 互 佐野 寧	650～656

(4) NBI による観察で見落としゼロへ	藤井 隆広	657～664
(5) BLI/LCI による観察で見落としゼロへ	笹部真亜沙・池松 弘朗 砂川 弘憲・村野 竜朗 新村 健介	665～669
(6) AI 支援で見落としゼロへ	森 悠一・工藤 進英 三澤 将史	670～673
3. 見落としゼロに有用か		
(1) カプセル内視鏡の立ち位置	壺井 章克・岡 志郎 平田 一成・隅岡 昭彦 飯尾 澄夫・田中 秀典 山下 賢・田中 信治	675～682
(2) 大腸 CT 検査の立ち位置	永田 浩一・木島 茂喜 馬嶋健一郎・五十畑則之 松岡 正樹・大平 弘正	683～688
4. 見落とし病変と考えられた症例 —症例から学んだこと		
(1) 観察不十分による見落とし症例 —その要因と対策を考察する	泉 敦子・齋藤 彰一	689～696
(2) ポリープの経過観察中に、短期間に浸潤癌 に至った早期大腸癌の 1 例	大津 健聖・久部 高司	697～701
(3) 病変が小さかったことが見落とし要因と なった症例	原田 馨太	702～707
(4) サーバイランス内視鏡にて進行大腸癌で 発見された PCCRC の 2 例	佐藤 義典・清川 博史	708～712
見落とし病変と考えられた症例のまとめ —症例から何を学んだのか	浦岡 俊夫	713～714
●Vol. 37 No. 7 Common disease となった潰瘍性大腸炎の 現状と診療のコツ		
巻頭言	加藤 順	735～736
1. 潰瘍性大腸炎の疫学、治療法の進歩、本邦の 医療体制の問題点	穂苅 量太・東山 正明 成松 和幸・高本 俊介	737～744
2. 潰瘍性大腸炎の病態・自然史をふまえた治療 戦略	飯島 英樹・岩谷 修子	745～750
3. 潰瘍性大腸炎診断のコツ	清水 誠治・富岡 秀夫	751～756
4. 5-ASA 製剤の種類、適応症例と使い方およ び副作用—不耐も含めて	安富絵里子・井口 俊博 平岡佐規子	759～764

5. 経口ステロイドの上手な使い方, 依存例, 抵抗例への対処法, 副作用対策	杉本 健	765~769	(6) わが国における肝臓成因の動向	建石 良介	901~906
6. 局所療法の適応, 種類と上手な使い方 —直腸炎型への対処も含めて	加藤 真吾	771~775	2. HCV 駆除後の肝臓病における課題		
7. チオプリン製剤とは何か? どのような症例にどう使うのか?	志賀 永嗣・角田 洋一 正宗 淳	779~785	(1) HCV 駆除後の肝臓病発生の現状とリスク因子	石堂 舜・玉城 信治 黒崎 雅之	907~913
8. 分子標的薬, 生物学的製剤の種類とその適応	金山 健剛・加藤 順 太田 佑樹・對田 尚 齊藤 景子・加藤 直也	787~792	(2) HCV 駆除後の肝臓病の基礎的考察—形態とゲノムからの考察	相崎 英樹・青柳 東代 杉山 真也・村松 正道 溝上 雅史・脇田 隆宇	914~919
9. 外来フォローの実際とコツ	那須野正尚・宮川 麻希 田中 浩紀	793~798	3. HBV 増殖制御下の B 型肝炎における肝臓病発生の現状とリスク因子	保坂 哲也	921~926
10. 潰瘍性大腸炎からの発癌と手術療法	江本 成伸・石原聡一郎	803~810	4. NAFLD/NASH における肝臓病発生の現状とリスク因子	徳重 克年	927~932
11. スペシャルシチュエーションと腸管外合併症	谷口 勝城	811~816	5. 非 B 非 C 型肝炎病発生のどう考えるか	中塚 拓馬・建石 良介	933~939
12. 紹介のタイミングと病診連携について	上野 伸展・藤谷 幹浩	817~821	6. NAFLD 肝臓における肝臓薬物療法の注意点	葛谷 貞二・川部 直人 廣岡 芳樹	940~946
13. 潰瘍性大腸炎患者の食事, 日常生活の指導 および難病助成制度などの社会制度について	長堀 正和	825~829	●Vol. 37 No. 9 食道疾患の診療		
私の視点			I 食道疾患の理解に必要な基礎知識		
(1) 潰瘍性大腸炎の診断と治療コンセプト	加藤 順	757~758	1 食道の解剖	高木 靖寛	992~995
(2) 潰瘍性大腸炎の基本治療	加藤 順	776~778	2 食道の血行動態	林 涼子・山本 果奈 中村 真一・徳重 克年	996~1001
(3) 潰瘍性大腸炎の治療応用編	加藤 順	799~801	3 食道の生理機能	舟木 康・加藤 駿介 田村 泰弘・井澤 晋也 小笠原尚高・春日井邦夫	1002~1009
(4) 知っておくべき知識	加藤 順	822~824	II 胃食道逆流症の診療		
●Vol. 37 No. 8 ウイルス肝炎制御時代の肝臓病			1 「胃食道逆流症(GERD)診療ガイドライン 2021」の概要	岩切 勝彦	1012~1016
巻頭言	小池 和彦	863~864	2 胃食道逆流症の成因と疫学	沢田 明也・藤原 靖弘	1017~1022
1. ウイルス肝炎制御をめぐる疫学と最新動向			3 胃食道逆流症の診断	和田 将史・畑 佳孝 水流 大堯・牟田 和正 伊原 栄吉	1023~1028
(1) わが国における HCV 感染症の疫学 —最近の疫学と HCV elimination の見通し	田中 純子	865~872	4 胃食道逆流症の薬物療法	小池 智幸・伊丹 英昭 大原 祐樹・齊藤 真弘 正宗 淳	1029~1038
(2) わが国における HBV 感染症の疫学 —最新の治療薬, ワクチンのトピックス	八橋 弘	873~879	5 胃食道逆流症の非薬物療法	島村 勇人・田邊 万葉 年森 明子・鬼丸 学 井上 晴洋	1039~1045
(3) わが国における NAFLD/NASH の疫学	角田 圭雄・藤井 英樹 高橋 宏和・鎌田 佳宏 川口 巧・中島 淳	880~887	III 食道癌の診療		
(4) わが国における肝硬変成因の動向	榎本 平之・飯島 尋子	888~893	1 「食道癌診療ガイドライン」の概要	坊岡 英祐・北川 雄光	1048~1054
(5) MAFLD と肝硬変・肝臓	川口 巧・堤 翼 中野 暖・下瀬 茂男 新関 敬・古賀 浩徳	894~900			

2 「食道癌に対するESD/EMRガイドライン」の概要	石原 立	1055～1059	20 食道癌に対する集学的治療—化学放射線療法	高木 正統・吉武 忠正 石神 康生	1154～1157
3 食道がんの罹患率・死亡率の動向	井上真奈美	1060～1064	21 食道癌に対する放射線療法—粒子線治療も含む	溝口 信貴・高草木陽介 加納 希生・島 聖 土田 圭祐・芹澤 慈子 鎌田 正・吉田 大作 加藤 弘之	1158～1164
4 食道癌治療成績の全国集計	渡邊 雅之・藤 也寸志 土岐祐一郎	1065～1068	22 食道癌に対する緩和治療—ステント治療も含む	松山 仁・上田 正射 中島 慎介・谷田 司 池永 雅一・山田 晃正	1165～1169
5 食道癌の危険因子	古江 康明・堅田 親利	1069～1073	IV その他の食道疾患の診療		
6 食道癌のゲノム, エピゲノム異常	竹内 千尋・張 春東 牛島 俊和	1074～1078	1 「食道運動障害診療指針」の概要	栗林 志行・草野 元康 浦岡 俊夫	1172～1178
7 食道癌のX線, CT, PETによる診断	田中 努・大西 祥代 山田 啓策・田近 正洋	1079～1083	2 「POEM診療ガイドライン」の概要と最新の知見	塩飽 洋生・岡田 浩樹 塩飽 晃生・長谷川 傑	1179～1187
8 食道癌の超音波内視鏡診断	大岩 恵祐・古川 和宏 川嶋 啓揮	1084～1088	3 食道アカラシア	井上 晴洋・福田 舞	1188～1192
9 食道扁平上皮癌の内視鏡診断—拾い上げ診断から質的診断まで	小山 恒男・高橋亜紀子	1089～1094	4 食道憩室	桑井 寿雄・楠 龍策 田丸 弓弦	1193～1197
10 Barrett食道表在腺癌の内視鏡診断—拾い上げから質的診断	郷田 憲一・阿部圭一郎 金森 瑛・近藤 真之 田中 孝尚・鈴木 統裕 山宮 知・富永 圭一 飯島 誠・入澤 篤志	1095～1099	5 食道裂孔ヘルニア	望月 暁・八木 浩一 石岡 充彬	1198～1202
11 食道癌の生検病理診断	小嶋 結・日下恵理子 小柏 剛・立石 陽子	1100～1104	6 先天異常に伴う食道疾患	内田 広夫	1203～1210
12 食道癌切除標本の病理診断	塚本 徹哉	1105～1112	7 食道カンジダ症	小田島慎也	1211～1214
13 食道扁平上皮癌に対する内視鏡的切除	辻 陽介・坂口 賀基 藤城 光弘	1113～1118	8 好酸球性食道炎	阿部 靖彦・佐々木 悠 水本 尚子・八木 周 小野里祐介・上野 義之	1215～1222
14 食道腺癌に対する内視鏡的切除	鈴木 悠悟・布袋屋 修	1119～1124	9 その他の食道炎	船坂 好平・堀口 徳之 大森 崇史・宮原 良二 柴田 知行・廣岡 芳樹	1223～1227
15 食道癌に対する光線力学療法(PDT)	浦部 昭子・矢野 友規	1125～1129	10 バレット食道, バレット食道癌	松崎 一平・横井太紀雄 角嶋 直美・菊池 正和 服部 昌志	1228～1232
16 食道癌に対する開胸手術	尾崎 麻子・峯 真司	1130～1135	11 マロリーワイス症候群	片岡 陽佑・豊島 治 和田 友則	1233～1236
17 食道癌に対する鏡視下手術, ロボット手術	瀬戸 泰之・八木 浩一 西田 正人・愛甲 丞 山形 幸徳・森 和彦	1136～1140	12 特発性食道破裂	島田 英雄・西 隆之 千野 修・數野 暁人 谷田部健太郎・小柳 和夫 幕内 博康	1237～1241
18 進行・再発食道癌に対する薬物療法	中田 晃暢・室 圭	1141～1148	13 食道静脈瘤	和栗 暢生・大崎 暁彦	1242～1250
19 食道癌に対する集学的治療—周術期補助療法	前田 修	1149～1153	14 食道粘膜下腫瘍	吉永 繁高・高丸 博之 牧口 茉衣・阿部清一郎	

	野中 哲・鈴木 晴久	
	斎藤 豊	1251～1255
15 食道異物	西本 正幸・井口 幹崇	1256～1259
●Vol. 37 No. 10 胆道ドレナージのすべて―適応・方法		
巻頭言	五十嵐良典	1271～1272
1. 総 論		
(1) 胆道ドレナージの必要な病態とドレナージ法の選択	潟沼 朗生・濱 憲輝 安藤 遼・中村 里紗 岩野 光佑・豊永 啓翔	1273～1280
(2) ドレナージカテーテル, ステンツの種類と特徴	土岐 真朗・神林 孔明 野坂 岳志・落合 一成 権藤 興一・久松 理一	1281～1299
2. 各 論		
(1) 悪性遠位胆管狭窄に対する経乳頭のドレナージ	川嶋 啓揮・大野栄三郎 石川 卓哉・山雄健太郎 水谷 泰之・飯田 忠	1301～1305
(2) 悪性近位胆管狭窄に対する経乳頭のドレナージ	笹平 直樹・三重 堯文 岡本 武士・武田 剛志 松山 真人・佐々木 隆	1306～1312
(3) 良性胆管狭窄に起因する胆管炎に対する経乳頭のドレナージ	福士 耕・入澤 篤志 阿部 洋子・星 恒輝 山宮 知・永島 一憲	1313～1321
(4) 術後再建腸管に対するバルーン内視鏡による経乳頭の胆道治療のコツ	八木 伸・栗田 裕介 長谷川 翔・佐藤 高光 細野 邦広・窪田 賢輔	1322～1327
(5) 胃十二指腸狭窄併存例の胆道ドレナージ	北村 英俊・脇岡 範 永塩 美邦・丸木 雄太 大場 彬博・奥坂 拓志	1328～1335
(6) 経皮的胆管ドレナージ	北村 勝哉	1336～1341
(7) 経皮的胆嚢ドレナージ	河上 洋・畑田 紘志 内山 尚美・小川宗一郎 田村 穂高・大園 芳範	1342～1349
(8) 経乳頭の胆嚢ドレナージ	菅野 良秀・伊藤 啓 小堺 史郷	1350～1359
(9) EUS 下肝内胆管ドレナージ	糸永 昌弘・北野 雅之	1361～1366
(10) EUS 下肝外胆管ドレナージ	中井 陽介	1367～1371

●Vol. 37 No. 11 外来で行う消化器がん薬物療法のコツ―専門医からのアドバイス		
巻頭言	朴 成和	1395～1396
1. がん診療におけるがん薬物療法の位置づけ		
(1) 食道がん	高見澤重賢・山本 駿 加藤 健	1397～1403
(2) 胃がん	大村 洋文・有山 寛 馬場 英司	1404～1409
(3) 大腸がん	松原 裕樹・室 圭	1410～1416
(4) 肝臓がん	澁木 太郎・池田 公史	1417～1424
(5) 膵臓がん	奥坂 拓志	1425～1430
(6) 胆道がん	佐々木 隆	1431～1437
2. 外来療法中の悪心・嘔吐, 発熱, ポート管理		
	前田 修	1439～1443
3. 外来で施行可能な最新レジメンと最適な患者管理		
(1) 経口フッ化ピリミジン系薬物, FTD/TPI 使用レジメン	水上 拓郎・内野 慶太	1444～1450
(2) プラチナ系薬物使用レジメン	稲垣 千晶・川上 尚人	1451～1456
(3) タキサン系薬物使用レジメン	杉浦 徳子・原 浩樹	1457～1462
(4) イリノテカン系薬物使用レジメン	下嵯啓太郎・高張 大亮	1463～1469
(5) ゲムシタビン使用レジメン	石垣 和祥	1470～1478
(6) 血管新生阻害薬使用レジメン	梶原 猛史・仁科 智裕	1479～1486
(7) 抗 EGFR, 抗 HER2 抗体薬使用レジメン	石塚 保亘・山口 敏史 佐藤 太郎	1487～1492
(8) キナーゼ阻害薬使用における有害事象	原田 一顕・小松 嘉人	1493～1498
(9) 免疫チェックポイント阻害薬使用レジメン	岡野 尚弘・西岡真理子 林 雅人・廣田 玲 水谷 友紀・長島 文夫	1499～1506
●Vol. 37 No. 12 肝の超音波を知り尽くす―びまん性肝疾患の診断		
巻頭言―びまん性肝疾患の診断の重要性とこれから	寺井 崇二	1523～1524
1. 肝臓の走査法		
	畠 二郎	1525～1530
2. びまん性肝疾患(線維化)		
(1) B モード画像	和久井紀貴・永井 英成	1531～1538
(2) エラストグラフィ	a. Transient Elastography 中塚 拓馬・建石 良介	1539～1546

b. Real-time Tissue Elastography (RTE) 小泉 洋平・廣岡 昌史 吉田 理・徳本 良雄 阿部 雅則・日浅 陽一 1547～1551 c. Shear Wave Elastography (SWE) 多田 俊史・飯島 尋子 小林奈津子・西村 貴士 的野 智光・熊田 卓 1552～1559 d. MRE による肝線維化診断, 超音波エラストグラフィとの比較 玉城 信治・黒崎 雅之 1560～1566 3. びまん性肝疾患(脂肪化) (1) B モード画像 a. 脂肪肝の診断と評価 小林奈津子・飯島 尋子 塚平 俊久・熊田 卓 1567～1571 b. 籐状エコー(櫛状エコー, Flag sign との 相違) 住野 泰清・和久井紀貴 永井 英成・丸山 憲一 神山 直久 1572～1574 (2) 脂肪減衰法による診断 a. CAP, ATT 廣岡 昌史 1575～1579 b. ATI, UGAP 熊田 卓・小川 定信 後藤 竜也・丹羽 文彦 豊田 秀徳・安田 諭 1580～1586 (3) NASH 診断・NAFLD との鑑別 a. エラストグラフィによる NASH 診断 大枝 敏・高橋 宏和 1587～1592 b. Dispersion Imaging の原理と NASH 診 断への活用法 杉本 勝俊 1593～1598 c. MRI-PDFF による NAFLD/NASH 診断, 超音波減衰法との比較 今城 健人・國分 茂博 中島 淳 1599～1606 〔トピック〕 AI による NASH 病理診断 水落 伸治・近藤礼一郎 矢野 博久 1607～1613 ●Vol. 37 No. 13 肝の超音波を知り尽くす 一肝腫瘍の診断と治療支援 巻頭言 沖田 極 1643～1644 1. 腫瘍診断 (1) LI-RADS(超音波, 造影超音波) 南 康範・工藤 正俊 1645～1652	(2) AI による腫瘍診断 西田直生志・工藤 正俊 1653～1661 (3) 良性肝腫瘍 小川 眞広 1662～1667 (4) 悪性肝腫瘍 a. 肝細胞癌と境界病変 西村 貴士・東浦 晶子 飯島 尋子 1668～1674 b. 肝内胆管癌(胆管細胞癌), 細胆管細胞癌, 転移性肝癌 黒田 英克・藤原 裕大 長澤 倫明・阿部 珠美 松本 主之 1675～1681 (5) 組織と超音波診断 a. 肝癌および異型結節の病理と画像 中島 収・隈部 力 黒松 亮子・塩賀 太郎 木村 芳三・檜垣 浩一 1682～1689 b. 肝臓の腺系腫瘍性病変の病理と画像 市原 真・長谷川聡洋 1690～1696 2. 穿刺診断と治療支援 (1) 穿刺・診断・治療 a. 超音波ガイド下肝生検・肝腫瘍生検 黒松 亮子 1697～1701 b. 肝癌アブレーションと超音波 丸山 紀史・椎名秀一朗 1702～1706 c. 高密度焦点式超音波法(HIFU) 竹内 啓人・祖父尼 淳 杉本 勝俊・糸井 隆夫 1707～1711 d. 肝癌薬物療法効果判定 阿部 珠美・黒田 英克 松本 主之 1712～1717 (2) 治療支援 a. Fusion 画像による肝癌治療支援 小川 力・工藤 正俊 1718～1724 b. 術中超音波/Indocyanine Green 蛍光シ ステムを用いたナビゲーション肝切除 楊 知明・西野 裕人 小木曾 聡・石井 隆道 瀬尾 智・波多野悦朗 1725～1730 c. 術中造影超音波 有田 淳一・宮田 明典 河口 義邦・赤松 延久 金子 順一・長谷川 潔 1731～1736
---	---

|||||内視鏡の読み方(連載)|||||||

Vol. 37 No. 1 潰瘍所見を伴った早期胃癌の術前診断 角嶋 直美・鈴木 智彦	廣瀬 崇・室井 航一 伊藤 信仁・古川 和宏 117～120
---	-----------------------------------

|||||消化管異物の診断と治療(連載)|||||

Vol. 37 No. 5

小児の消化管異物 浮山 越史・渡邊 佳子
石濱 秀雄 583～586

Vol. 37 No. 7

成人における消化管異物
赤松 泰次・植原 啓之
下平 和久・宮島 正行
土屋 智章・木畑 穰 845～850

Vol. 37 No. 8

異食と精神疾患 渡邊 己弦・山本 賢司 970～972

Vol. 37 No. 13

消化管異物に対する治療ストラテジー
石橋 史明・鈴木 翔
永井 瑞紀・持田賢太郎
森下 鉄夫 1745～1750

|||||大腸ポリープに挑む(連載)|||||

Vol. 37 No. 6

第1回 大腸ポリープをめぐる諸問題
松田 尚久・堀田 欣一 715～720

Vol. 37 No. 7

第2回 大腸ポリープの検出を向上させるための工夫
河村 卓二 837～840

Vol. 37 No. 8

第3回 大腸ポリープ診療に人工知能(AI)がもたらすもの
三澤 将史・工藤 進英
森 悠一 953～958

Vol. 37 No. 10

第4回 大腸ポリープに対する内視鏡診断の最前線
坂本 琢・秋山慎太郎
小林真理子・奈良坂俊明
鈴木 英雄・土屋輝一郎 1381～1387

Vol. 37 No. 11

第5回 大腸ポリープの診断・治療アルゴリズム—10 mm未満の大腸ポリープに対するCold polypectomyとEMRの使い分けを中心に
浦岡 俊夫・田中 寛人
糸井 祐貴・佐藤 圭吾
中田 昂・春日 健吾
橋本 悠・保坂 浩子
栗林 志行 1512～1516

Vol. 37 No. 12

第6回 内視鏡的大腸ポリープ切除の意義
小林 望・関口 正宇
中村 佳子・角川 康夫
斎藤 豊 1630～1635

Vol. 37 No. 13

大腸ポリープに対する最適な治療法の選択
居軒 和也・藤原 敬久
牛腸 俊彦・紺田 健一
片桐 敦・吉田 仁 1751～1757

|||||「胃炎の京都分類」の使い方(連載)|||||

Vol. 37 No. 7

第1回 既感染診断の実際(総論)
加藤 元嗣・津田 桃子 831～836

Vol. 37 No. 8

第2回 除菌後に新たに出現する地図状発赤とは
鎌田 智有・勝又 諒
砂金 彩・村尾 高久 947～951

Vol. 37 No. 10

第3回 既感染診断としての萎縮—*H. pylori*未感染の幽門腺粘膜と除菌後のC1およびC2の鑑別について
寺尾 秀一・鈴木 志保 1373～1380

Vol. 37 No. 11

第4回 びまん性発赤の内視鏡診断 小野 尚子 1507～1511

Vol. 37 No. 12

第5回 びまん性発赤の除菌後変化
土肥 統・瀬谷真由子
福井 勇人・石田 紹敬
吉田 直久・伊藤 義人 1615～1620

Vol. 37 No. 13

第6回 点状発赤の診断
安田 貢・尾立 磨琴 1737～1740

学会だより

Vol. 37 No. 2

JDDW2021 第 25 回 日本肝臓学会大会

坂元 亨宇 154

Vol. 37 No. 3

JDDW2021 第 102 回 日本消化器内視鏡学会総会

植木 敏晴 290

Vol. 37 No. 8

第 94 回 日本胃癌学会総会

小野 裕之 920

第 108 回 日本消化器病学会総会

中尾 一彦 952

Vol. 37 No. 10

第 58 回 日本肝臓学会総会

由雄 祥代 1360

『臨牀消化器内科』編集委員会

編集委員：小池 和彦，五十嵐正広，一瀬 雅夫，杉山 政則，藤城 光弘，屋嘉比康治

編集協力者：多田 正大，樫田 博史

ゲストエディター：高橋 信一(No. 2)，建石 良介(No. 3)，山本 貴嗣(No. 4)，浦岡 俊夫(No. 6)，
加藤 順(No. 7)，飯島 尋子(No. 11, 12)

歴代編集委員：岡 博(故人)，島津 久明(故人)，玉熊 正悦(故人)，棟方 昭博，市倉 隆，
中村 孝司(故人)，丹羽 寛文(故人)，田尻 久雄